

医学教育分野別評価 長崎大学医学部医学科 年次報告書

2023 年度

医学教育分野別評価の受審 2017（平成 29）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.11
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35

はじめに

本学医学部医学科は、2017 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2018 年 9 月 1 日より 7 年間の認証期間が開始した。

受審時には基本的水準 12 項目、質的向上のための水準 10 項目が部分的適合となった。2019 年度には行動科学の体系化や、専門教育科目での水平統合の推進、臨床実習評価などの改善点を報告した。2020 年度には新しいディプロマ・ポリシーの策定に向け、新案を作成した。プログラム管理について教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置し、委員に学生と医学科以外の教育関係者を加えた。2021 年度には新しいディプロマ・ポリシーの策定、学生の成績評価に関する「疑義申し立て制度」の構築、地域医療ゼミナール入試の導入ならびに執行部のリーダーシップに関する自己評価を実施した。2022 年度には、新カリキュラム・ポリシーを策定し、ポストコロナ医療人材養成拠点形成事業による長崎大学・熊本大学・鹿児島大学の三大学間の学生交流実習ならびに基礎医学と臨床医学の関連を理解させるために低学年から身体診察や医療面接を行った。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35 を踏まえ、2023 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022 年度 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂があった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

ディプロマ・ポリシーに関して当学科を希望する学生に対して簡潔でわかりやすいものへ変更すべく、昨年度に新ディプロマ・ポリシーの策定を行った。2022 年度は新ディプロマ・ポリシーをさらに修正し、新カリキュラム・ポリシーを策定した。

1.3 学習成果

基本的水準

医学部は、

- 期待する学修成果を目標として定め、学生は卒業時にその達成を示さなければならない。それらの成果は、以下と関連しなくてはならない。
卒前教育で達成すべき基本的知識・技能・態度（B 1.3.1）
 - 将来にどの医学専門領域にも進むことができる適切な基本（B 1.3.2）
 - 保健医療機関での将来的な役割（B 1.3.3）
 - 卒後研修（B 1.3.4）
 - 生涯学習への意識と学習技能（B 1.3.5）
 - 地域医療からの要請、医療制度からの要請、そして社会的責任（B 1.3.6）
- 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、そして家族を尊重し適切な行動をとることを確実に修得させなければならない。（B 1.3.7）
- 学修成果を周知しなくてはならない。（B 1.3.8）

特記すべき良い点（特色）

- ・ ディプロマ・ポリシーの領域別に下位項目として具体的な卒業時学修成果が明示されている。

改善のための示唆

- ・ 学生が学修成果を着実に修得できるように教育し、成果を検証すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2021 年度に策定した新ディプロマ・ポリシーを一部修正し、それに準拠した新カリキュラム・ポリシーを策定した。最終的に策定したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは 2023 年 2 月の医学科教務委員会および医学科会議の承認を得た。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 1 新ディプロマ・ポリシー
- ・ 資料 2 新カリキュラム・ポリシー

2. 教育プログラム

2022 年度は、2021 年入学者から適応となった新カリキュラムに沿って、2 年次までに臨床現場を意識づける講義・実習内容を導入した。「医療倫理」は 1 年次から 4 年次まで学習レベルに応じて学習する機会を設け、科学的、技術的そして臨床進歩に従った内容に整理した。学生の学習意欲向上へ結びつく大学間連携実習プログラムの導入や ICT を活用した教材の開発に着手した。ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業において長崎大学・熊本大

学・鹿児島大学の三大学間の学生交流実習の導入やデジタルコンテンツを共有する教育プログラムに着手した。

2.1 プログラムの構成

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「ようこそ先輩」や医学科・保健学科・長崎純心大学と共修するチーム医療、ワークライフバランス PBL、多職種連携症例検討などを初年次より 4 年次まで段階的に配置し、生涯学習につなげていることは高く評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業により、長崎大学・熊本大学・鹿児島大学の三大学間の学生交流実習の導入やデジタルコンテンツを共有する教育プログラムの作成に着手した。医学科 2 年 120 名に VR 体験を含むデジタルコンテンツを活用した授業を行った。臨床実習では 2 名が熊本大学の臨床実習に参加した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 3 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 申請書

2.2 科学的方法

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「医学史・原爆医学と長崎」、熱帯医学研究や感染症研究を基にした「感染系」の教育、「離島医療・保健実習」など、長崎大学の特徴を生かし、地域のニーズにも応えるプログラムを導入していることは高く評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 「感染症」の授業において、感染制御教育センター・感染症医療人育成センター

が中心となり院内感染対策実習を含め感染症防御教育を行なっている。

改善状況を示す根拠資料

- 資料4 令和4年度シラバス（一部抜粋）感染症系

2.3 基礎医学

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- 放射線医療、熱帯新興感染症、離島を中心としたへき地医療、地域医療の中心となる救急医療や高度先進医療などを導入していることは評価できる。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 低学年から身体診察や医療面接を行い、基礎医学と臨床医学の関連を認識させ、基礎医学学習の意欲向上に結びつけた。

改善状況を示す根拠資料

- 資料4 令和4年度シラバス（一部抜粋）医と社会Ⅰ、医と社会Ⅱ

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 行動科学に該当する教育は行われているが、体系的に行うための教育責任者を定め、統合的にプログラムを企画し、実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 医療倫理を体系的に教育するため、医療倫理学の教育責任者を定め1年次から4年次まで連続して学習できるようにカリキュラムを整理し、令和5年度より実施予定とした。

改善状況を示す根拠資料

- 資料5 令和5年度シラバス（一部抜粋）医と社会

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 行動科学、医療倫理学は、科学的、技術的そして臨床的進歩に従って、カリキュラムを調整することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 医療倫理学の教育責任者を定め、1年次2コマ、2年次2コマ、3年次4コマ、4年次2コマの合計10コマを実施することをシラバスに明記し、令和5年度より実施予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料5 令和5年度シラバス（一部抜粋）医と社会

2.5 臨床医学と技能

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- 初年次から4年次までの「医と社会」から始まり、臨床実習、高次臨床実習へと段階的に遂行されるプログラムは、社会の問題や医療制度上必要となることを学ぶカリキュラムとして、評価できる。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 臨床実習の充実を図るために、担当する診療科に門田レポートの項目調査を行った。結果を分析し、今後のカリキュラムへ反映させる。
- 低学年から身体診察や医療面接を導入し、基礎医学と臨床医学の関連を理解できるカリキュラムを実施した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料6 臨床実習における学生医行為実施状況調査_依頼メールと調査票
- 資料4 令和4年度シラバス（一部抜粋）医と社会Ⅰ、医と社会Ⅱ

2.6 プログラムの構造、構成と教育時間

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 教育プログラムの水平的および垂直的統合は部分的導入にとどまっている。統合をさらに推進し、より効果的な教育を実践することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 5年次の学習進捗状況を把握するとともに、臨床実習の目的を明確にするために、5年次の臨床実習期間中に中間試験の導入を決定した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料5 令和5年度シラバス（一部抜粋）5年次時間割

2.8 臨床実践と医療制度との連携

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- 地域医療プログラムには、離島など、地域との交流があり、その意見も教育プログラムに反映されている。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業において学外有識者、保健医療行政関係者からなる外部評価委員会を設置し、事業評価を受け、今後の教育プログラムに活かす体制を構築した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料7 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 報告書

3. 学生の評価

領域 3.1 評価方法について、基本的水準及び質的向上のための水準における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、基礎医学、臨床医学試験評価における信頼性、妥当性の検証について考査におけるマークシート活用状況の実態調査を行った。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 基礎医学および臨床医学 TBL で多角的な評価方法を導入し、リサーチセミナー（基礎医学研究実習）では学生全員が参加するリサーチセミナー 発表会を開催していることは評価できる。

改善のための助言

- Mini-CEX、ポートフォリオをさらに活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- CC-EPOC の導入について検討し、導入予定である。（資料8）

改善状況を示す根拠資料

- 資料8 先端医育センター会議議事録

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 基礎医学および臨床医学試験、臨床実習の評価における信頼性、妥当性を検証することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 評価方法の信頼性と妥当性の検証を可能とする為に、設問の正解率や検出率等

の信頼性、妥当性検証が可能なマークシート方式の導入を目指し、考査におけるマークシート活用状況の実態調査を行った。(資料9)

改善状況を示す根拠資料

- 資料9 マークシート利用状況調査結果

4. 学生

新しいゼミナール方式で入学した学生に対し、ゼミナール受講に関するアンケートを実施した。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- アドミッション・ポリシーをもとに、入試改革を進め、多彩な選抜方式によって多様な人材を入学させていることは評価できる。

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 2021年度から推薦A（地域）枠及びB（地域特別）枠の出願要件に地域医療ゼミナール受講を受験要件とするゼミナール方式の入試を導入している。このゼミナール方式の入試を受験した初学年の入学生に対し、受講に対するアンケートを実施した。(資料10) 2023年度もアンケート設問を再検討の上実施予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料10 地域医療ゼミナールに関するアンケートフォーム

5. 教員

領域5.1及び領域5.2の基本的水準（及び、質的向上のための水準）における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教員全員を対象としたアンケートを実施し、定期的なモニタリングを2022年度に継続して行った。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 日本版注釈「教員の男女間のバランスの配慮」に関して、女性教員の比率向上に向けた教員選考に関する要項を継続的に運用し、女性教員を採用した教室に対し、インセンティブとして採用年度にスタートアップ経費を配分している。生命医科学域（医学系）の有期雇用を含む女性教員の占める割合は2017年度は11.3%だったが、2018年度は10.1%、2019年度は12.6%、2020年度は14.1%、2021年度は15.3%、2022年度は15.6%と上昇して推移している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1-1 2017年度～2022年度 生命医科学域（医学系）教員男女比推移

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育、研究、臨床（診療）の活動についての教員の業績を評価基礎データベースで把握し、教員の評価に活用していることは評価できる。
- ・ 医学部研究高度化支援室（MEDURA）を設置し、研究者支援を行っている。

改善のための助言

- ・ 教育、研究、臨床（診療）のバランスについて定期的にモニタし、適正なバランスに保つべきである。
- ・ 評価基礎データベースを用いて、各教員が臨床と研究の活動を教育活動にどの程度活用しているかをモニタすべきである。
- ・ カリキュラム全体を教員が把握しているかどうかをモニタすべきである。
- ・ 教員研修に関するFDを医学部として組織的に開催し、受講を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教員のエフォートをモニタリングするために、2019 年度は教育実務担当者を対象に施行したアンケートを、2020 年度-2022 年度は教員全体に実施した。(資料 1 7)
- カリキュラムについて教員の把握状態を教員アンケートによりモニタリングを継続して行った。また 2022 年度はアンケート内に参考 URL をリンクさせることで回答時にカリキュラム掲載場所や内容等を学べるように工夫を行った。(資料 1 2)
- 臨床系教員についてはOSCE評価者となる能力開発のため、教員候補者選考基準にOSCEの評価者となる意志を要件として加えた。(資料 1 3) また、勤勉手当の成績評価基準以外に、昇給区分の推薦基準としてもOSCE認定評価者としての貢献の項目を加えた。(資料 1 4)
- 無期雇用転換後の教員の能力開発につながる評価のため、5 年ごとの活動評価の体制を整えた。(資料 1 5)
- 教育支援教員の活動評価の方法を医学教育の実態に即したものに改訂した。(資料 1 6)
- 評価基礎データベースの周知度は 35.2%から 59.8%に、積極的自己申告率は 35.2%から 43.5%に 3 年度間で上昇し、これをもとに各教員が臨床と研究の活動を教育活動にどの程度活用しているかをモニタしていく。(資料 1 7)

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1 1 2017 年度～2022 年度 生命医科学域（医学系）教員男女比推移
- 資料 1 2 教員アンケート カリキュラム把握度
- 資料 1 3 教員候補者選考基準への OSCE の評価者となる意志を追記
- 資料 1 4 昇給区分の推薦基準としての OSCE 認定評価者としての貢献
- 資料 1 5 無期雇用転換後の教員活動評価の体制
- 資料 1 6 教育支援教員の活動評価の改訂
- 資料 1 7 教員アンケート 教員の教育および評価

6. 教育資源

領域 6.1（施設・設備）に関して、コロナ禍においてもカリキュラムが適切に実施されるように遠隔授業システムの整備を行った。

6.1 施設・設備

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 学生が利用できるシミュレーションセンターが充実している。

改善のための示唆

- なし。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 遠隔授業システムを整備し、コロナ禍においても均等に教育を受ける機会を担保した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料18 オンライン授業時間割

7. 教育プログラム評価

IR 室の活動を経年的に行っており、カリキュラム評価委員会であげられた改善点をカリキュラム委員会で検討している。

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 平成27年度に医学部IR室を設置し、活動を開始している。

改善のための助言

- 医学部IR室において学生評価の解析を経年的に行うことにより、教育プログラムの改善に反映させる体制および運用を確立すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 白衣授与式時から臨床実習に対しての継続的なアンケートを開始した。（資料19, 資料20）
- カリキュラム変更前後の学生の成績を比較して、カリキュラム変更の影響をカリキュラム委員会にて検討した。（資料21, 資料22, 資料23）

改善状況を示す根拠資料

- 資料19 白衣授与式に関するアンケート（公開版）
- 資料20 臨床実習に関するアンケート（公開版）
- 資料21 カリキュラム改編と合格基準推移_国試合格率

- 資料 2 2 カリキュラム評価のための成績比較
- 資料 2 3 第 3 回カリキュラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- IR 活動を充実させ、教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任についてのデータ集積と解析が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教育プログラムに対する教員の意見を集めるため教員アンケートを実施した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 2 4 2022 年度教育プログラムに関する教員アンケート

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- 教育プログラムに対する教員と学生からの意見を系統的に集め、分析し対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 教育プログラムに対する教員の意見を集めるため教員アンケートを実施した（資料 2 4）。
- 教育プログラムに対する学生の意見については、学生委員（1 年から 6 年生の委員 1 名ずつ）からカリキュラムに対する意見を聴取した。そして、調査内容をカリキュラム評価委員会で評価し、改善点をカリキュラム委員会へ提案した。（資料 2 5, 資料 2 6, 資料 2 7, 資料 2 8）カリキュラム委員会での検討結果をもとに、カリキュラム評価委員会で新カリキュラムに対する学生の意見をアンケ

ート調査することが計画された。(資料23)

改善状況を示す根拠資料

- 資料23 第3回カリキュラム評価委員会議事要旨
- 資料24 2022年度教育プログラムに関する教員アンケート
- 資料25 第1回カリキュラム評価委員会議事録
- 資料26 第2回カリキュラム評価委員会(学生委員)議事録
- 資料27 第2回カリキュラム評価委員会議事要旨
- 資料28 カリキュラム評価委員長からカリキュラム委員長への提言

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- 卒業生に教育資源に対するアンケートを行っている。

改善のための助言

- 医学部医学科のディプロマ・ポリシーを評価の観点に、学生の実績を分析すべきである。
- 学生のみならず、卒業生の実績についても解析し、教育プログラムの改善に反映させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 経年的にディプロマ・ポリシーを評価の観点にして、卒業生アンケートを実施・分析している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料29 学生生活と学修成果に関するアンケート調査_2022年度6年生(公開版)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- なし

改善のための示唆

- 学生と卒業生の実績を背景と状況、入学時成績の観点で、今後、分析することが

望まれる。

- 学生の実績を分析し、入試委員会、教務委員会、学生委員会に情報を提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 医学部 IR 室で入学時の成績と入学後の成績、卒後の成績について調査し、医学部長、教務委員長、学生委員長へ情報提供を行った。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 3 0 2022 年度 6 年生成績分析調査結果（部外秘）

9. 継続的改良

継続的改良のため、現状の実態調査や修正を行っている。また、各領域における取組状況等を共有するため、定期的に分野別評価責任者と各領域責任者の面談も実施している。

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- 医学部 IR 室を設置し、教学にかかるデータを収集し、解析を始めている。

改善のための示唆

- 教育プログラムの過程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学習環境を定期的に自己点検するカリキュラム評価委員会が実質的に活動を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- カリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーの改正・改定を行っている。（資料 1，資料 2）
- オンライン臨床教育評価システム（CC-EPOC）の導入について検討した。（資料 8）

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1 新ディプロマ・ポリシー
- 資料 2 新カリキュラム・ポリシー
- 資料 8 先端医育センター会議議事録

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- 評価を実施せず

改善のための示唆

- 評価を実施せず

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 基礎医学、臨床医学試験評価における信頼性、妥当性の検証について考査におけるマークシート活用状況の実態調査を行っている。（資料9）
- 領域別のワーキンググループ(WG)を開催し、前年度の評価報告書の内容を参考にしながら、必要に応じて提案を行うなど改善に向けた協議を行っている。また、定期的に分野別評価責任者と領域責任者との面談を実施している。（資料3 1, 資料3 2）

改善状況を示す根拠資料

- 資料9 マークシート利用状況調査結果
- 資料3 1 第4回面談記録
- 資料3 2 第5回面談記録